



# 府中かんきょう 市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報  
 2022年夏号 7月13日(水)発行 通巻85号  
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)  
 TEL 080-5646-5524  
 編集人 葛西 利武  
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

米作り体験  
2022

## 田んぼの学校 第1回「田植え」

東京農工大学  
「耕地の会」  
横山 優斗さん

### 初回、田植えを開催

5月29日、快晴の空の下、「田んぼの学校2022」を開くことができました。当日は30℃に迫る暑い日でしたが、生徒は皆しっかりと帽子をかぶり万全の熱中症対策。皆、暑さに負けじと張り切っています。開校式は予定通り9時から始まり、開校のあいさつ、ストレッチ、田植え手順の説明と滞りなく進み、そして9時30分、ついに水田に入る時がきました。

### ふと、振り返ると、、、

水田の独特なぬかるみに生徒は大興奮。田んぼの広さや水温を例えて「海だ!」「お風呂だ!」と大はしゃぎ。1本のロープに沿って1列に並び終えた後、イネの苗の束を片手に1本ずつ丁寧に植えていきます。



子供たちが植えて、耕地の会のスタッフが苗を渡していく

水田は畑と異なり、土が水に浸っており、苗を土に固定させるのが難しいです。生徒は初めての田植えだったので上手く植えられず、横たわったり、浮いてしまったりしました。

それぞれ子供たちに1列当たり4か所植える場所が与えられています。自分の担当の場所を植えた後、次の列へ移動します。今回は転倒防止のため、前に進みながら田植えをする方式をとりました。足が抜けず転びそうになる子もいましたが、上手くバランスをとって次の一步を踏み出します。

田植え中には街中では見かけない20cmほどの大きなミミズがたくさんいました。物珍しそうに「でっかいミミズだ!」と言いながら捕まえる女の子。今年の生徒はとてとてもたかましいです。

7列ほど進んだ後、小休憩を挟み、水を一杯配りました。生徒からは「おいしい! 最高!」と田植えの疲れを癒す声があがりました。さあ、田植えもうひと踏ん張りです。

今年は熱中症対策のため、田植えの時間は1時間と限られました。時間内で出来る限り多くの列が終えられるように頑張る子供たち。ふと振り返り、自分の植えた箇所を見てみると、いつの間にか1本の線状にイネがきれいに植えられています。何回も植えるうちに田んぼのぬかるみにうまく植えられるようコツをつかんだのです。

### 楽しみな宿題

あっという間に1時間が過ぎ田植えは終了、一斉に田んぼからあがります。ずっと水に浸っていたせいかわ、風が足に当たる感触が新鮮です。泥だらけの足を洗った後、「田んぼの学校」の宿題であるバケツ稲の説明が始まりました。バケツに土を入れ、水を張り、肥料を入れて自宅でイネを育てます。どんな風に成長するのか毎日様子を観察するのが楽しみです。当日は非常に暑い日でしたが、誰も熱中症となることなく、元気に帰って帰りました。

7月に行われる第2回の「田んぼの学校」では水田にいる昆虫探しをします。街中では見かけない生き物たちに早く会ってみたいですね。

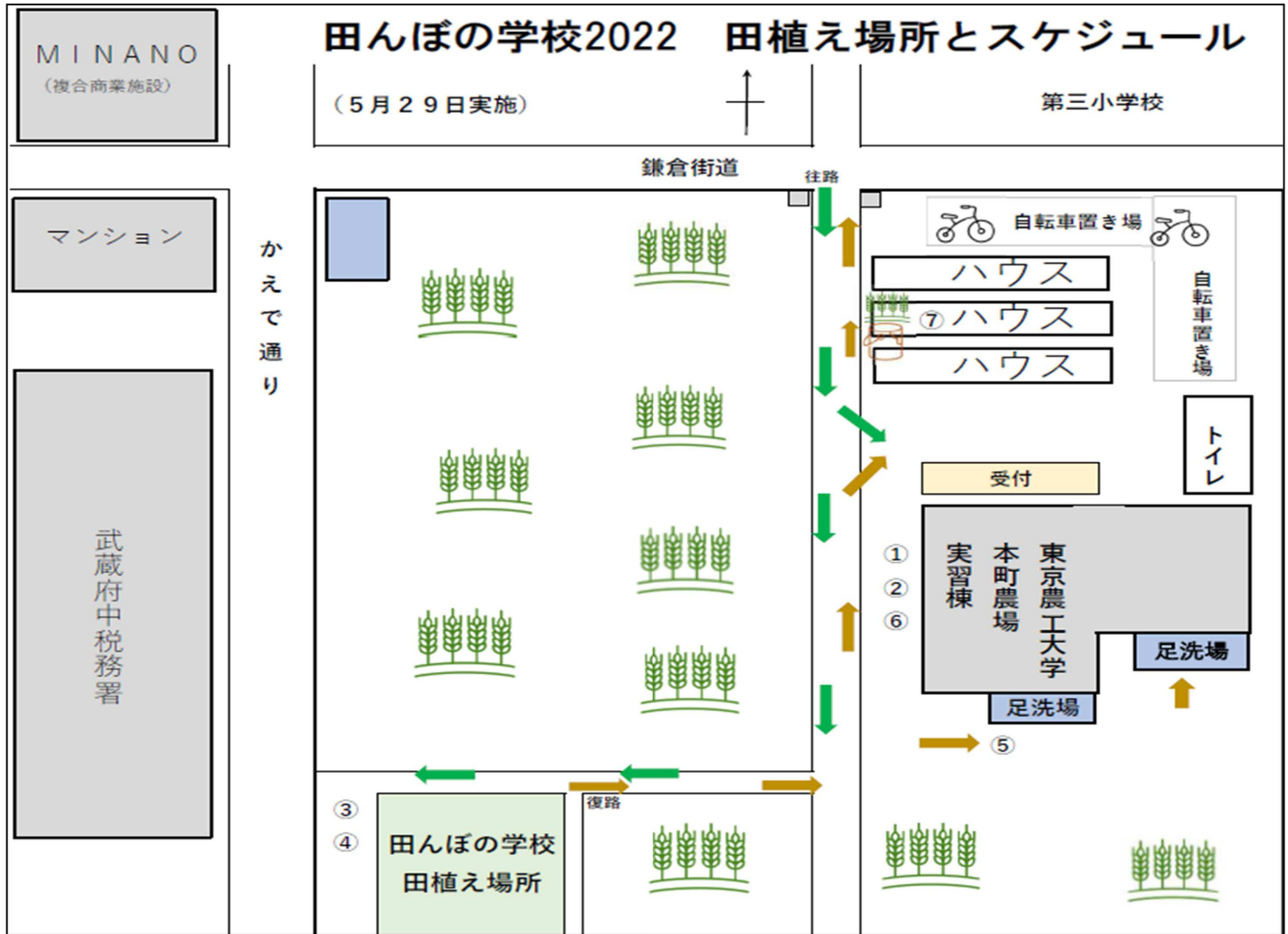


耕地の会のスタッフが、生徒にバケツ稲の手渡し

### 最後に、「耕地の会」について一言

「耕地の会」は東京農工大学の学生サークルです。普段は大学の農場を借りて、自分たちで育てたい作物を育てています。

イチゴや水菜、スイカ、ジャガイモ、トウモロコシなど様々な作物を育てています。収穫した野菜をみんなで食べる時は格別です。



**本町農場にて 第15回「田んぼの学校」2022／3年ぶりに開催！**

新型コロナウイルス感染症対策で2年間中止していた「田んぼの学校」を開校した。ただし、今回の第15回田んぼの学校は「密」を避けるため、例年の半分の20人募集に対して48人の応募があり、抽選で23人の参加となった。前回の開催(2019年)は40人募集で42人の参加、34人修了だった。

生徒及び保護者の皆さま方にとっても、久しぶりのアウトドアでの活動となったのではないだろうか。最高気温は30℃だったが、本格的な暑さになる前に活動を終わることが出来たので、生徒は太陽の下でのよき自然体験ができた。田んぼの学校は、都会ではなかなか出来ない体験なので、貴重な体験となることだろう。ちなみに、植えた稲は「イクヒカリ」である。

また、東京農工大の学生グループ「耕地の会」の皆さまにご参加いただき、多くのサポートをしていただいたことに感謝申し上げます。さらに、1面にも記事を書いていただいた。

以下は、参加者、田植え場所とスケジュール、全4回の日程である。

**参加者72人の内訳**

- ・生徒…20人
- ・家族…23人
- ・東京農工大学「耕地の会」…15人

- ・府中市役所…3人
- ・府中かんきょう市民の会…11人

**田植え場所とスケジュール**

上の地図(小西信生作成)、「田んぼの学校2022田植え場所とスケジュール」に記載されている①～⑦の時間配分等を以下に示した。

- ① 8:30～…検温、受付、会費支払い、資料受取り
- ② 9:00～…スタッフあいさつ、ストレッチ
- ③ 9:10～…田植え場所に移動し準備(靴から靴下にはき替え) 田植え手順説明
- ④ 9:20～ 10:10 **田植え** 最長1時間(熱中症対応で50分に短縮) 水飲み休憩タイム実施
- ⑤ 10:45～…足洗場へ移動し、帰宅準備
- ⑥ 11:00～…バケツ稲説明
- ⑦ 11:10～…バケツ稲・用土渡し(20人配布)

**全4回の日程**

- (1) 5月29日(日) ・開校式・田植え・バケツ稲渡し(終了)
  - (2) 7月17日(日) ・稲の観察 ・田んぼの生き物さがし
  - (3) 9月25日(日) ・稲刈り・はさかけ
  - (4) 10月23日(日) ・脱穀 ・もみすり ・修了式
- ※時間はいずれも午前9時～正午まで

(葛西利武)

# わき水まつり 2022

## 夏休み特別企画

コロナ禍のため、2019年7月に開催して以来3年ぶりとなる「わき水まつり」を再開します。

今夏は、府中市の自然遺産ともいえる西府崖線での野外活動を楽しみませんか。そこでは、子どもたちあるいは大人にも我が郷土、府中の素晴らしい自然を体験してもらいたいと思います。

2019年までは、わき水まつりパート1(講演会)、パート2(野外観察会)と銘打っていましたが、今季は「魚と昆虫の野外観察会」と「西府崖線を歩き、緑保全を知ろう！」の二つの野外活動を企画しました。皆さまの参加をお待ちしています。特に、子どもたちの参加大歓迎です！

(1)魚と昆虫の野外観察会／今年は例年と違い現時点では府中用水に入るかどうか未定です。当日、判断しますが、用水に入る予定の方は長靴のご用意もお願いいたします。

(2)西府崖線を歩き、「緑保全」を知ろう！／本宿町緑地からハケ上西府町緑地まで散策します。崖線の緑保全のあり方のモデル事業を学び、崖線の豊かな自然を満喫していただけるものと思います。

(1)(2)ともに小雨決行。荒天と高温注意報発令時は中止とし、順延はなしとします。服装はいずれも長袖、長ズボン、帽子(明るい色)、濡れてもいい靴、着替え、マスク、飲み物等持参でお願いします。

## (1)魚と昆虫の野外観察会



前回、2019年7月21日の「わき水まつり」。府中用水にて

日時／7月24日(日) 9:00～11:00

場所／近くの府中用水にて

集合／あずまや前(日新町1丁目) 9:00集合

内容／魚と昆虫の生態系調査

(用水に入るかは当日判断)

## (1)魚と昆虫の野外観察会

## (2)西府崖線を歩き、「緑保全」を知ろう！

参加費／保険代100円/人(小学生以下含む)

募集／必ず保護者同伴で10組先着順

講師／大平 充氏 博士(農学)

(東京農工大学大学院博士課程修了)

申込み／浅田まで Tel 090-8806-8165

①(1)の受付は18日(月、祝日)朝9:00からとします。

## (2)西府崖線を歩き、「緑保全」を知ろう！



端正な佇まいの「あずまや」。ハケによく似合い、当会の活動拠点でもある。手前は市川用水

日時／7月31日(日) 9:00～11:00

集合／JR南武線「西府駅」改札口前にて9:00集合

コース／本宿町緑地の保全活動と希少種キツネノカミソリ観賞→カツパ池→あずまや→西府町湧水(東京の名湧水57選)→西府町湧水池→(ハケ上)西府町緑地などの見学

※当日、コース案内「西府崖線プロムナード」を渡します。

募集／市民20人先着順(小学生以下同伴可)

参加費／500円(保険料、資料代含む。小学生以下無料)

※当会会員を別途10人募集。参加費100円

講師／①公園緑地課(課長補佐) 須田茂也氏

「緑地保全のあり方」について

②第一造園(株) 仁平(ニヘイ) 豊彦氏

「崖線の土留めと選択除草」について

申込み／葛西まで Tel 090-5564-5838

②は「広報ふちゅう7月21日号」にも募集記事が掲載されるため、受付は7月21日の朝9:00からとします。お間違いのないようお願いいたします。

(葛西利武)

会員募集中！／一緒に活動しませんか。活動は西府崖線保全活動、田んぼの学校、小学校の環境学習、環境調査、援農ボランティアなど様々。問い合わせは Tel 080-5646-5524 小西まで

# オンライン、リアル併用 2022年度 総会報告

今年度の総会は4月13日(水)13:30～15:30プラッツ第5会議室(ル・シーニユ6階)で開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、会員からの多くの委任状をいただき、オンラインとリアルの併催で行ないました。

承認・決議された内容は下記のとおりで、役員改選や中長期ビジョンの策定など、今後の当会の進むべき方向も含め、いくつかの項目となっています。

- 1、2021年度年次事業報告、決算報告
- 2、2022年度年次事業計画、予算承認
  - (1)新年度事業計画承認
  - (2)年会費、規定の改定
- 3、任期満了に伴う理事、監事改選(2022～2023年度)
  - (1) 役員改選
  - (2) 理事長の重任(総会終了後の理事会で互選)
  - (3) 事務局員、グループリーダーの任命
- 4、2022年度の事業分担
- 5、中長期ビジョンの策定(5年計画)

## 1、2021年度年次事業報告、決算報告

新型コロナウイルス感染症対応のため、2021年度も2020年度と同様に、田んぼの学校や、わき水まつりなど一般市民が参加する活動は自粛しました。

リアルでの活動では、マスク着用・体温チェック・アルコールによる手洗いの励行、定例会などはオンラインとの併用も行ない、当会の事業による会員の新型コロナ感染症は無い状態で1年間を終えることができました。

決算数値は2021年度は実質49万円強と、新型コロナによる影響前の2019年度の実質89万円強の約半分になりました。

※2021年度は前年分の返還額を、2019年度は20周年事業費を除いた実質支出額で比較

## 2、2022年度年次事業計画、予算承認

### (1) 新年度計画承認

2022年度は前年と同様、新型コロナ対応を意識しながら行なっていくこととなりますが、田んぼの学校、わき水まつりは規模などは縮小しながら実施または実施を予定するところまで事業計画を策定しました。

体も動かす事業は復活にとどまっていますが、温室効果ガス対応や、ごみ問題、水じゅんかん問題、SDGsなど、時代の変化、当会が事業としては取り組んでこなかったテーマも検討項目として取り上げることになりました。

支出予算も73万円強と、24万円の増としました。

田んぼの学校の実施、在庫が無くなっている当会腕章分作成が前年度と比較して主に増加したのですが結果として13万円強の赤字予算としました。

新規の入会が6月現在で3人あり、小学校2校での環境学習も予算より多めの収入が期待されるため、若干赤字は減る見込みですが、活動全体では、従来と同様経費節減に努める必要があります。

### (2) 年会費、規定の改定

2022年度から年会費は正会員2,000円を、1,500円(ボランティア保険500円を含む)、賛助会員は1,000円(ボランティア保険350円を含む)に変更しました。

現在の当会の資産状況は100万円程度ですから、多少の赤字になっても単年度で資金繰りに困ることはなく、当会として当面必要なことは、各事業に参加いただける会員の増加にあると考えているためです。

環境学習での講師派遣についての規定も一部変更し費目を交通費とし、収入の半分としました。

講師謝礼とすると、報酬として課税対象となり源泉徴収も必要になること、ボランティア保険の対象にもならなくなるためです。

既に運用では交通費として支給していましたが、規定を現状に合わせたものです。

環境学習では受講する全児童に配布する資料代も発生しており、教育委員会から受け取る収入からその費用を支出していますが、交通費の金額についても明確にしたものです。

2021決算/2022予算 単位:円

科目	2021決算	2022予算
収入	601,965	607,100
支出	642,645	734,000
内2020年度分返還金	146,100	
当期計上増減額	-40,680	-126,900
次期繰越額(当会財産)	1,057,410	

## 3、任期満了に伴う理事、監事の改選(2022～2023年度)

### (1) 役員改選

### (2) 理事長の重任(総会終了後の理事会で互選)

2022年度から2年間の任期で理事・監事の改選を行ないました。

当会には本部役員の定年制があるため、2年後には理事長を含む2人が対象になること、理事就任には事前の事務局員での経験を求めており、高齢化への対応も含めた対応が今後とも求められます。

### (3) 事務局員、グループリーダーの任命

事務局員とグループリーダーも新たな任命を行ないました。

ただし、一方で高齢化が進んでおり、新型コロナ対応もあり、定例会など会員同士が直接顔を合わせ、他のグループの活動を直接聞く回数が大幅に減っている状況下では、本部や事務局に入っていたいただける会員を選考していくことは困難なテーマです。

## 4、2022年度の事業分担

例年と同様、今年度も各事業に各会員を特定していません。2022年度2年間のコロナの影響下での活動を経て、慎重に各事業を進めています。

## 5、中長期ビジョンの策定

2022年度から5年間の期間で初めて策定しました。中長期ビジョンでの当会の課題は以下のとおりです。

- ・会員本人や家族の高齢化による健康・介護問題の顕在化→やむを得ぬ退会や活動の停滞が危惧
- ・サラリーマンの退職年齢延長化(60歳→65,70歳)による新規入会者の高齢化
- ・若い世代・子育て世代は、時間制約により、入会・活動が困難
- ・正会員の高齢化→役員候補不足
- ・コロナ禍での活動問題→オンラインWeb会議への対応困難者の出現。

中長期ビジョンの方向性はAの拡大案とBの現状維持の折衷としました。→広報PR活動や活動地域の拡大、新

規プロジェクト(事業)の掘り起こしなどにより、会員増を図るとともに、全般的な高齢化に合わせ、役員任期等については柔軟に対処します。

広報PR活動としては、広報ふちゅうの広場欄での会員募集を2022年度から始めるとともに、各新規事業についても2022年度中での検討開始を目標に事業を進める予定です。

世界や、日本全体が環境について関心を高め、府中市も2023年度から2030年度までの第3次環境基本計画を策定し、市民協働でその実現を図ろうとしています。

私たち府中かんきょう市民の会が、市民のための環境保全・まちづくりに少しでも貢献できるようにしていきたいものです。

(小西信生)

## 公園は 憩いの場

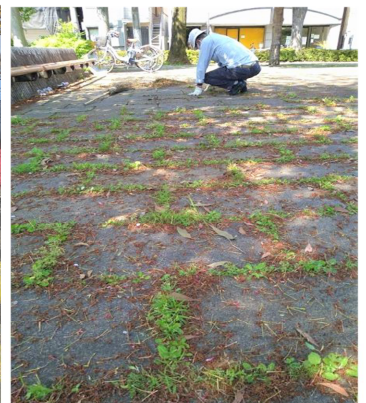
## 令和3年度 公園清掃実施状況について

NPO法人府中かんきょう市民の会は、20年以上前の発足当初から府中市より押立町緑地、栄町中央公園、かわごえどう広場の3公園の清掃委託を受けており、この事業は当会の目的の大きな柱となっている。

令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)の3公園の清掃回数及び参加人員は下記の結果となった。

当会3公園の清掃委託料については、当会運営費の財源の一つであり当会の活動目的にも合致するものであり、令和3年度の延べ参加人数は17名であったが、それぞれが10回以上参加されている。

府中市民の憩いの場である公園の清掃について、今後とも多くの会員の参加を期待している。なお、右の写真はいずれも栄町中央公園である。(高橋和夫)



④公園清掃と落ち葉銀行/落ち葉銀行は公園等で収集した落ち葉を預金とみなし、市が回収し腐葉土化した上で、翌年落ち葉の量に合わせて腐葉土を引き出す制度(12月上旬撮影) ⑤雑草取り/紅色の箇所は蕊(しべ)。「桜蕊降る」は春の季語にもなっている(4月下旬撮影) =写真提供 村崎啓二

公園名	実施回数	参加人数	平均参加人数	公園の面積	清掃日(雨天順延)
押立町緑地	24	130	5.4	2798.10㎡	1、3月曜日8時～
栄町中央公園	24	111	4.6	642.80㎡	1、3日曜日10:30～
かわごえどう広場	24	41	1.7	234.06㎡	2、4土曜日9:30～
合計	72	282	3.9	3674.96㎡	

## 土に戻せば CO<sub>2</sub>なし

## 我が家の温暖化対策

20年余、生ごみを収集に出したことがない。土に埋めているからだ。庭はない。埋める範囲は40cm×6mだ。

水をすくうときに両手を合わせた程度のくぼみを小さなシャベルで作る。深さ約10cm、そこに三角コーナーの生ごみを入れ土を被せる。埋める場所は毎日少しずつ変える。

それだけで生ごみが土に還る。悪臭はない。春から秋は土中の生き物が多いからそれ以外の期間に比べ土に還る日数が短い。盛夏は1週間程度で土に還る。

生ごみを燃やせばCO<sub>2</sub>が排出される。土に戻せば焼却によるCO<sub>2</sub>の排出はない。住宅事情にもよるが状況が許せば生ごみを土に埋めることを試してみたいかが。  
(松壽 孝樹)



④⑤ 穴とスケール  
三角コーナーとシャベル

### 第五小学校

## ふるさとの自然を守り伝えてくれると、うれしい！

#### ハケと多摩川での環境学習のひとコマ

ハケの湧き水に手を入れ「冷たい、気持ちいい！」と声を上げる子、初めは触ることさえできなかったカブトムシの幼虫を手のひらにのせて「可愛い」と見つめる子。カラスノエンドウと、一回り小さいスズメノエンドウの名前や由来に興味を示した野草チームの二人は、「また見つけたよ、コツがつかめてきたのかな」と、普段は気に留める事もない道ばたの草花に目を凝らしていました。



東京の名湧水57選「西府町湧水」付近にて

5月の府中第五小学校(ハケ)と6月の四谷小学校(多摩川)の環境学習でのひとコマです。

#### 以前ボランティアとして参加、このたび入会

息子が小学3年の時に参加した府中かんきょう市民の会の環境学習に、保護者ボランティアとして同行させてもらったことがありました。子ども達が身近にある自然に親しむ様子を見て、こうした活動が長く続いてほしいと思っていました。その後、ご近所の会員の方から声をかけていただいたのをご縁に入会を決めました。

どちらも学校のすぐ隣のいつも遊んでいるようなエリアで、子供たちに特別な場所という意識はなかったと思います。そうした普段から周りにある自然が実は素晴らしいものなのだと気づき、興味を持つきっかけに環境学習がなればいいなと願っています。

そして将来、豊かなふるさとの自然を守り伝えていく人になってくれたらうれしいです。

自然がただ好きというだけの素人で専門的な知識もありませんが、これから色々勉強していきたいと思っています。よろしくお願いします。

(増田紀子)

### ふるさとの自然を見つけよう

## 2022年度 一学期の環境学習を実施

府中市立第五小学校、四谷小学校での環境学習を一学期から行ないました。第五小は5月18～19日にフィールドワーク、四谷小は5月31日～6月1日に行ないました。

第五小学校は6年目、四谷小学校は4年目になりますが、3年生全員を対象に総合の時間で、小学校の中やまわりの自然を観察する授業の講師を行なっています。



四谷小、玄関前児童たち

#### 五小では

第五小学校でのフィールドワークの場所は、小学校校内の自然と隣接する西府崖線です。

ただ、自然観察を3年生に短時間ですべて行うことには無理があるため、各クラスごと樹木・野草・昆虫にグループを分け、わき水は各グループ共通、事前のオリエンテーションで地形などについての学習を行ないました。

これまでの2年間は新型コロナウイルス感染症対応で年間3回のフィールドワークは実施できずにきましたが、2022年度は緊急事態宣言もまん延防止等重点措置の発令がない前提ですが、各学期に自然観察を行なう計画で、まず一学期からスタートしました。

これからの二学期には、一学期と同様のグループで初夏と秋でどのような自然の変化が見られるか、三学期には児童全員でバードウォッチングを計画しています。

#### 四谷小では

四谷小学校では、小学校校内の自然と、隣接する多摩川の河川敷、西府緑地を学習の場所としました。

3年前の台風(2019年東日本台風)で、堤防内での川筋が小学校から遠くに移動して



四谷小の環境学習での写真。太陽のまわりにできた虹(6月1日午前)  
=撮影/増田紀子

しまったこと、河川敷の中の樹木のほとんどが流されてしまったために自然の樹木の観察は困難なこと、また児童の安全を考慮して、多摩川の流れに直接ふれる学習は当分の間お休みです。

フィールドワークは、樹木・野草・昆虫に分け、事前のオリエンテーションで地形も含めた多摩川全体についての学習を行ないました。

四谷小では夏の渡り鳥であるツバメの子育てを観察しようとした。ただし、抱卵はしている気配でしたがひなはまだ孵(かえ)っていないようで、かわいい姿は観察できませんでした。三学期には、多摩川で冬の渡り鳥の多くを観察できると期待しています。  
(小西信生)